

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071001194		
法人名	草寿 株式会社		
事業所名	平尾宅老所		
所在地	福岡市中央区平尾1丁目10-6 (電話) 092-522-1121		
自己評価作成日	令和 2 年 12 月 10 日	評価結果確定日	令和 3 年 3 月 18 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設理念に基づき、ご入居者様のお一人おひとりがその方らしく笑顔あふれる生活が送れるように「笑顔」「思いやり」「きづき」をもち、日々の支援に努めています。また、認知症になっても安心して生活できる場所が提供できるよう、人材育成に力を入れ日々取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 1 月 20 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は賑やかな街中に立地しており、最寄りの駅からも徒歩5分と交通の便がとても良い場所にある。また、近くに神社があり、日常の散歩コースとなっている。事業所内は家庭的な雰囲気となっており、利用者と職員がとても近い距離で接している。職員は、利用者一人ひとりの思いに寄り添いながら支援している。また、職員の年代も幅広く、また外国人雇用もあり利用者は様々な刺激を受けながら安心した暮らしを送られている。

現在はコロナウイルス感染症の影響により地域とのつながりも難しくなっているが、その分事業所内で職員が工夫を凝らし気分転換できる行事などに取り組まれていた。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関入口など館内に掲示しており、いつでも確認できる環境である。新入職員にもオリエンテーションで必ず伝えている。	法人の理念を元に事業所の独自の理念が作られている。館内など館内に掲示され、利用者、家族も目にする事ができる。職員は、毎月のエッセ会議の中で、年間や日々の具体的な目標を掲げ、理念の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃、段ボールの回収等、地域行事に参加して交流に努めている。近所への買い物や散歩をすることで地域の方とも交流ができる。	町内会に加入し、町内会長と連絡を取りながら地域との結びつきを保っている。事業の状況はホーム内でも地域内外の方に公開している。行事などはコロナ禍のため中止となっているが、以前は、地域の餅つきに参加したり、事業所主催の体操教室に地域の方を招いたりしていた。現在は、段ボールの廃品回収や清掃活動に参加している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議は開催中止し施設内での会議になっているが、地域包括支援センターや町内会長と連絡を取りながら情報の共有を行い、サービスの向上に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止のため、通常の運営推進会議は開催中止となったが、包括担当者や町内会長と連携しながら施設内で行った会議の内容をもとにサービス向上に努めている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されている。構成員は利用者、家族、中央区第5いきいきセンター職員、平尾町内会長、民生委員となっている。事業所の運営報告やコロナ禍の対応について情報交換など行っている。双方で意見を出し合いより良い関係づくりに取り組まれている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスの影響で体操教室は活動休止となった。包括担当者と地域の情報を共有しながら協力関係を築いている。	コロナ禍に伴い、電話やメールでの連絡が主となっている。その中で必要に応じて報告、相談を行っている。書類申請なども感染防止のため郵送でのやり取りとなっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の研修と強化月間を設けポスターを設置し、職員の意識を高めている。	通りに面しており、防犯上、施錠をせざるを得ない環境下であるが、日中、玄関の施錠は必要に応じて開錠している。利用者の外出希望がある場合は職員がその都度付き添いを行っている。施錠時は家族への説明も行き、理解を得ながら対応されている。身体拘束廃止については事業所として重点を置き内部研修も年2回は実施するようになっている。	日中の時間帯は、施錠しないように取組の工夫をして欲しい。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	入職時と年に2回の研修と強化月間を実施。毎月の委員会で施設の現状把握を行っている。ポスター掲示等で虐待に対する認識を深めている。当施設で言葉遣いなど間違いがあればその場で注意を行っている。	/	
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談窓口を案内している。施設内で勉強会も行い、いつでも職員が閲覧できるように冊子を設置している。	権利擁護に関する説明は、契約時及び利用開始時に行っている。年1回、職員は、内部研修で制度について学ぶ機会がある。事業所内に、成年後見制度などのパンフレットを準備し相談時、対応できるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学で施設に対する不安や疑問等に丁寧に説明を行い理解していただいている。	/	
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染防止のため、ご家族様へは電話連絡を行い入居者様の日々の様子等を報告している。また、要望等をお聞きして運営に反映するように努めている。	利用者の意見については、「入居者のワクワクすることを知ろう」と企画を設けたり工夫を凝らしながら対応されている。挙げられた意見は日々の暮らしの中で活かすようにされている。家族の意見についてはコロナ禍のため定期的に手紙にて事業所内の様子を伝え、電話にて意見を収集するようにしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やスタッフ会議で、意見や提案などを聞き入れ運営や管理に反映している。	職員は、月1回開催されるユニット会議内で積極的に意見を出すようにしている。管理者は、職員のアイデアや気づきに耳を傾け働きやすい職場づくりに努めている。コロナの感染予防については現場の意見をもとに業務改善など行われていた。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意見しやすい環境づくりを行い、やりがいをもって働けるように職場環境の整備に努めている。	/	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の意見を取り入れ、その人にあった業務の提供、育成を行っている。	職員の採用は年代も幅広く、定年後の再雇用で働かれている方もいる。また、外国人雇用など積極的に行われ、様々な人が働く職場となっている。入職後は、新人研修を始め、職員一人一人が研修の受講ができるように取り組まれている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修を行い入居者様、職員の人権が保護されている事や、基本的人権を学ぶ機会を設けている。人権に関する冊子などを事務所に置きスタッフが閲覧できる環境を整えている。	年間計画の内部研修のなかで、身体拘束廃止や権利擁護などの研修と兼ねて人権教育について学ぶ機会がある。日々の中でも人権を護ることについて管理者を中心に目を配っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修で学んだことを会議などで報告共有し質の向上に努めている。毎月のユニット会議で研修を行い、研修報告書等で理解度を確認している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などを通じて交流を深め情報の共有に努めている。他の施設での良いところは随時取り入れている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートから情報収集を行い、コミュニケーションを図りながらご利用者の悩みや要望等、相談しやすい環境づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設での様子などを報告し、ご家族との対話を持ち信頼関係構築に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシートやご本人様からのご意見、ご要望、ご家族様からの情報を基にご希望に添えるよう支援を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の観察や声かけから得られる情報を基に、ご本人に出来る事を見つけ、行えるような環境づくりに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事を通して入居者様の写真と施設での様子をお手紙にしてご家族へ郵送したり、リモートの導入により面会の制限の中でもご家族との時間を大切にできるように努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族への電話連絡の際はご本人様にもお話をさせていただくよう配慮している。ご友人との関係が途切れないよう手紙などを書く際に支援を行っている。	職員は、利用者の自宅の状況を確認し、入居後も自宅に近い環境の状態で過ごしていただくように努めている。また、馴染みの友人に年賀状や手紙などのやり取りが継続できるように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ時やレクリエーション時は、席を決めずいろんな方との交流が図れるよう配慮している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じ支援や相談に応じている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の思いやご家族様から要望をお聞きし、生活歴などを考慮しながら支援を行っている。	職員は日々の関わりの中で利用者の意向の把握に努めている。嚥下機能が低下している方でも「硬いものが食べたい」との意向があれば、訪問歯科等と連携を図り見守りのもと提供したり、散歩が日課になっている方に対しては、入居後も日課を継続している。また、意思疎通が困難な利用者には、生活歴や家族等から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやご家族様からの情報、ご本人様のお話を基に今までの生活環境に近づけるよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りノートは毎日確認を行う。細かい変化にも対応できるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活から、ご本人様に必要な課題を把握し、ご本人様やご家族様の意向も踏まえた計画作成を行っている。	毎日の実施状況や定期的なモニタリング、アセスメント、担当者会議にて状態や状況を把握しながら、6カ月に1回、また必要に応じて介護計画を見直しており、個別具体的な計画を作成している。また、利用者の状態や状況に変化があった際は、その都度、本人、家族から署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った実施記録の記入を行い、今後のプランに反映できるよう努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染防止に努めながら、ご本人の意向や状況に応じて買い物支援や外出支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止のため、短い時間での外出や、ご家族様との面会を実施しご利用者に喜んでいただける支援ができた。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に訪問診療を実施しその都度主治医に施設での生活状況を報告して、適切な医療が受けられるように支援している。	契約時に利用開始前の受診経過や受診の希望を確認し、今までのかかりつけ医でも事業所のかかりつけ医でも選択できるように支援している。通院方法も家族と相談しながら決めているが、現在はコロナの感染対策として全て施設職員で対応している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の体調面での気づきを看護師に報告し、体調不良の早期発見に努めている。24時間相談や受診ができるように体制を整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護サマリーなどによる情報の収集やムンテラ等に参加し医療との連携に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとにご家族やかかりつけ医と意向を確認しながら対応を図っている。	重度化対応・終末期対応指針及び医療連携体制加算の同意書を作成しており、利用開始前及び状況に応じて説明し同意を得ている。利用者や家族の意向を大切に、施設で出来る限りのケアを提供するとともに、週に1回、訪問看護の看護師が訪問し看護ケアも提供できる体制を整えている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを活用し、研修等で全ての職員が対応できるよう技術の習得を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。災害時の通報、避難訓練を研修で周知している。その他、消火器の使用法や設置場所も研修にて確認している。	マニュアルを整備しており、消防署の協力を得て、年に2回、夜間を想定した避難訓練や避難経路の確認、消火器の使用方法など実施している。避難訓練を実施する際には地域住民に呼びかけており、町内会長が参加した時もあった。非常用備品については、5日分の食料や飲料水、養生テープ、ガソリン、ラップ等を事業所内に準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に研修を行い、年長者への言葉遣いや態度を研修等で習得するようにしている。	書類の取り扱いなど個人情報管理ができており、排泄の際はドアを閉める、人前で排泄に関することは言わない、入浴は個別に対応する等プライバシーに配慮した支援が提供できている。また、内部研修により職員の意識の向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や声かけでご本人様の思いや希望を確認し、少しでも実現できるような環境づくりに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の生活ペースを大切にする。日々の状態に合わせて支援を行う。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に季節や気候に合わせた服選びを行っている。月に一度の理美容を利用し希望の方はカット、パーマやカラーを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれのご入居者様が使いやすい食器を用いてご自身で食べられるよう環境づくりを行っている。行事食の提供やご入居者様の希望を聞き、特別食を用意する機会を作っている。	利用者と一緒におかずの取り分けや盛り付け等の準備や洗い物、食器拭きの片付け等おこなっている。また、嗜好を把握し、入所後も好きな物を食べることが出来るよう配慮している。現在、コロナの感染予防にて食事を一緒に食べることはしていないが、以前は一緒に食事を楽しんでいた。	



項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人様の意向や状態に合わせた食事形態で提供している。毎食の食事量や水分量の確認を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけ、誘導を行っている。磨き残しなどがないように見守りし、うがいできないご利用者は拭き取りをして口腔の清潔を保っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用い排泄パターンを確認し、個々に合わせたタイミングでトイレ誘導を行っている。排泄表の見直しを定期的に行いご本人に合ったケアを心掛けている。	それぞれする等のサインを把握しケアプランに位置づけることで、ケアの統一を図っている。また、排泄表を用い、トイレ誘導やオムツ交換のタイミング等も把握できている。おむつやパットの種類についてもミーティングで話し合い、紙パンツから布パンツへの変更など、自立に向けた支援が行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため水分摂取、腹部マッサージ、定期的な運動を心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に2回の入浴を実施しており、その日ご本人様が入浴を好まない場合は日程調整を行っている。その他、湯温調整や浴室内の温度管理を行っている。	月曜日から土曜日を入浴設定日とし、日曜日も対応出来るようにしている。週に2回の入浴を基本とし、希望があれば出来る範囲で対応しており、入浴を嫌がる利用者に対しては、時間帯や毎日の声掛けを行い、時間は決めず、一日の時間の中で、夜間以外は対応できるように準備している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を活発にして夜間安眠できるように支援している。体調に合わせて自由に休めるように対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はカルテにファイリングし、変更があれば職員間で情報を共有している。内服後の状態変化に関しては、カルテに記録して主治医との情報共有を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご本人様のお話から、楽しみや趣味を把握し、個々に合った家事の手伝いや作業活動をしていただけよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮しながら職員と近くまで散歩に出かけたり買い物の支援を行っている。	コロナの感染予防にて外食や買い物、ドライブなどは行っていないが、散歩については、ほぼ毎日希望のある方と一緒に気分転換を兼ねて、施設付近を散歩している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をご希望されるご家族様やご本人様の預かり金は事務所で管理しており、毎月収支表を確認していただいている。ご本人様の能力に応じて買い物の際は職員が同行しお手伝いを行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様やご家族様の要望に応じて電話の使用やお手紙の作成のお手伝いを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた飾りや貼り絵をご利用者と一緒に作成し、リビングに飾り施設内で季節感を味わっていただいている。	季節感を感じてもらえるような飾りや貼り絵を、利用者と一緒に作成し飾っている。家庭的な雰囲気ですぐ居心地よく過ごせる空間となっている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご入居者様の状態に合わせて居室とリビングの出入りを自由に行っている。又、その時々に合わせて模様替えを行い居心地よい空間づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の愛着ある物や、好みの物を使用させていただき、心地よく過ごせる環境づくりに努めている。	馴染みのある家具を持ち込み、思い出の写真や小物を飾っている。また、安全面にも配慮しながら、安全に居心地よく過ごせる居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子や家具の配置を工夫して危険ないように安全で自立した生活が送れるよう努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご入居者様の生活支援に際し、施設の基本理念を根本として実践を行っている。また、毎月のユニット会議の中でスタッフ間で理念の確認を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ダンボール等の資源提供や近隣の店舗での買い物で、地域との繋がりを大切にして交流を行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括支援センターや町内会長を中心に連携を図り情報収集を行っている。運営推進会議の開催が困難ではあるが、今後も認知症の方への理解や支援についても情報発信を行う予定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催中止し施設内での会議になっているが、地域包括支援センターや町内会長と連絡を取りながら情報共有を行い、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内会や地域包括支援センターと情報交換を行い協力体制の強化に努めている。また、地域活動については広報誌や回覧板で情報収集を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修を行っている。ご入居者様の外出も、新型コロナウイルス感染の状況を確認しながら、安全に配慮し実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を行っている。管理者は職員の言葉遣いや接遇で不適切な表現がないかを確認し、その都度指導を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に権利擁護に関する研修を行い、学ぶ機会を設けている。これらの制度について必要なご家族には説明を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約についての説明を行い、ご理解いただいたうえで、入居案内や契約を行っている。契約内容に変更が生じた場合はその都度説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様やご家族様へ意見や要望を確認している。新型コロナウイルス感染防止のため行事の参加や面会に制限をしているため電話で対応を行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議を開催し意見を出し合う時間を設けている。必要に応じて個人面談を行っている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるように、意見の聴取や職場の環境設備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の能力が発揮でき、向上心を持って働くことができるように職場内の環境設備や人材育成に努めている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご入居者様、職員の人権が確保され、様々な差別について学ぶ機会を設けるために定期的に研修を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修で学んだことを委員会等で報告共有し質の向上に努めている。毎月のユニット会議で研修を行い、研修報告書等で職員の理解度を確認している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりや勉強会の活動を通じて事業所のサービス向上に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話をしやすい雰囲気をつくり、安心して生活できるような環境づくりに取り組んでいる。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初はこまめに情報提供を行い、不安なことや要望を汲み取り関係づくりに努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向を伺い必要な支援を見極め優先順位をつけてサービス利用に繋げている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の能力に合わせて家事活動を行う等、共に過ごして支え合う関係づくりに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、ご家族様と情報共有を行い、ご入居者様を支えていけるような関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限があり、ご友人や知人との連絡は電話やお手紙で行っている。お手伝いが必要な時は職員が支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で家事活動や余暇活動でご入居者様同士が楽しく交流が図れるように努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じてご本人様やご家族様の相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活での会話等から一人ひとりの思いや希望を把握できるよう職員間で情報共有している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方をご本人様やご家族様に確認している。また、関係機関の協力を得て情報収集に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃からご本人様のできること、心身状態やADLを把握しケアに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行い、ご本人様やご家族様の意向をもとに介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランに基づいた支援状況をカルテに記載し、職員間で情報共有しながらケアの統一を図っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や面会、外出等、状況に応じた対応を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報誌や回覧板による情報収集を行っている。状況を見ながら近所のコンビニエンスストアへ買い物へ行ったり神社へ散歩に行き、この地域で楽しく生活ができるように取り組んでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に沿って訪問診療を行っている。状態変化等があった場合は適切な医療が受けられるように連携を図っている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化等、電話での相談や報告を行い、適切な受診や看護が受けられるように努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必要な情報提供を行い、病院と連携を図り、状況把握、早期退院ができるように支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様や医療関係者を交え、段階ごとに話し合いを行い方針を決め、チームでの支援に取り組んでいる。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成して正確かつ適切な行動が取れるように定期的に訓練や研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成して施設内の研修、訓練を行い全職員に周知している。通常は町内会長、民生委員の方も参加して訓練も行っている。(今期は中止)		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様の尊厳や権利を守るため定期的に研修を行い職員に周知徹底している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での表情や仕草等を注意深く観察し、ご本人の願いや希望を汲み取るように取り組んでいる。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様の生活ペースを把握しその方に合わせた支援ができるように努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容や訪問理美容を活用して身だしなみを整えられるように支援している。ご入居者様と服を選ぶ等、その方らしいお洒落ができるようお手伝いしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等を一緒に行い、家での生活と同じように食事を楽しんでいただけるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態や食事内容、摂取方法の工夫を行い栄養状態の確保に努めている。また、無理なく水分摂取ができるように好みに応じた飲料を提供し栄養摂取や水分確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけをして口腔ケアを行っている。口腔内の確認後必要に応じて介助を行っている。また、訪問診療による口腔ケアも行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々のタイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。また、トイレに行きたい行動やサインを見逃さずトイレ誘導が行えるように支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防を目的とした体操や十分な水分補給を行い自然排便を促す工夫をしている。主治医と相談しながら内服による排便コントロールを実施することもある。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	当日の気分や体調に配慮して入浴日の変更等、臨機応変に対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者の生活習慣やその日の体調に合わせて休息の時間が取れるように配慮している。また、安眠できるように空調の調節や日課活動の参加を促している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテで薬の内容や目的、副作用等確認できる。薬の変更がある場合は申し送りノートを活用して職員に伝達を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日々の生活の中で一人ひとりの得意とされること、役に立ちたいと力を活かしたことを見出しいきいきとした生活が送れるように努めている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状況をみながら季節を感じて外出できるように支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の契約をされた方は事務所の金庫で管理している。毎月収支表を確認していただいている。ご入居者様の能力に応じて買い物に出かける支援を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様の要望を聞きながら電話の使用の際の取次、手紙の作成の手伝いを行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等が分からない方には表示したカードを掲示したり、テーブル等は名前を貼り混乱を招くことがないように声掛けをして親しみやすい空間づくりを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご入居者様が同じテーブルで過ごされ、心落ち着かれる環境づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様が大切にされていた物や好みの物を調えたりすることで安心して居心地の良い空間づくりに努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でも安全にすりを伝って歩ける等、その方の能力を活かして安全に移動できる動線を確保している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時やユニット会議で理念の確認をするようにしている。また、理念を基に施設の年目標、月目標を立てている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出の制限はあるが、近所への散歩や買い物へ行き、地域の方と触れ合える機会を設けている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響により勉強会や行事が一時中止となったが、リモートでの会議が始まるようになるため積極的に参加して情報収集を行いたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止のため、通常の運営推進会議は開催中止となったが、包括担当者や町内会長と連携しながら施設内で行った会議の内容をもとにサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターと情報交換を行い協力体制の強化に努めている。また、広報誌や回覧板でも情報収集を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご入居者様の人権を守るためことがケアの基本とし、全職員に研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	委員会を設置しており月に一度の会議と活動を行っている。全職員が虐待防止に向けて取り組み、些細なことも報告する体制をつくっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要とされるご家族様には活用できるように案内を行っている。施設内でも研修を行い、職員の周知に努めている。いつでも閲覧できるよう事務所で掲示している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居者様やご家族様の立場になって不安や疑問がないか確認を行い納得したうえで手続きを進めて行くように取り組んでいる。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様やご家族様より多くの意見要望を出していただけるように配慮している。職員間でも話し合い、サービスの質の向上に努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で職員からの意見や提案を聞いて運営に活かしている。さらに働く意欲の向上や質の確保に繋がっている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の人員増員や勤務時間の見直しにより向上心を持って働ける環境づくりを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	新入職者はもちろん、中途採用、外国人の雇用等、幅広く採用を行っている。また、個人の能力や経験も発揮できる体制を整えている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権や尊厳に関する研修を新人教育のマニュアルに取り入れている。また、全職員にも教育の一環として研修を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を行い、レポート提出や実技講習を行い各自が研修内容を把握しているか確認も行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内はリモート会議等で意見交換を行っている。認知症実践者研修に参加し他施設の方との情報交換もできた。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の安心を確保していくうえで、不安や要望を話していただけるような声かけや接し方に心掛け、笑顔で過ごしていただける関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居者様の日頃の様子や状態をお伝えし、ご家族様から意見や要望を聞いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居者様やご家族様の意向をしっかりと確認し、必要としている支援を見極め、できる限りの対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本来の個性や暮らし方を観察しながらご入居者様と共に過ごす関係を築き共感できる姿勢で対応している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子や状態を定期的に報告している。病院受診や日用品の準備等、ご家族様と相談しながら対応している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人とお電話で話をする機会を設けたり、お手紙のやり取りの支援を行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士で行える集団体操やかたるた、トランプを行う等、余暇活動の工夫を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談や支援ができる体制を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや意向を把握するために、ご入居者様の視点に立ちその方らしい生活に近づけるように職員間で取り組んでいる。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者の生活歴を確認し、なじみの暮らし方に少しでも近づけるような取り組みを目指している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様のできることや理解できることを日々の暮らしの中で発見していくことに努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様やご家族様の意向を把握したうえでケアプランに反映させている。変更が必要な場合は見直しや改善を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様の状態を日々観察し、カルテの記録、職員間での情報を共有しケアの見直しに努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様やご家族様の状況に応じた対応が行えるように施設内外との連携や相談できる体制を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報誌や回覧板による情報収集を行っている。状況を見ながら近所のコンビニエンスストアへ買い物へ行ったり神社へ散歩に行き、この地域で楽しく生活ができるよう取り組んでいる。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望に沿って訪問診療を行っている。状態変化等があった場合は適切な医療が受けられるように連携を図っている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、医療連携にご入居者様の状態報告を行い、状態変化の見られるご入居者様への対応等を指示してもらう。夜間の急変時も連携を取り対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院された際は情報提供、治療経過等の確認を行う。その後、ケアの見直し帰所の有無等の情報に応じた対応を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居者様やご家族様へ事前に延命を希望されるかの確認を行い、主治医と相談してどこまでの支援ができるかを見極めて対応している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成しており、職員も定期的に研修を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	委員会を設置し、毎月の会議を行っている。研修、訓練では通報の練習、消火器や消火栓の使用方法、非常階段の確認を行っている。災害時備え、食料や物品の準備も整っている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格や個性を尊重しプライバシーの保護についても個人情報と共に重要性をしっかりと学び対応できるように努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様の意向に耳を傾けて思いや希望を汲み取り少しでも自己決定できるように声かけや働きかけをするように努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけ、ご入居者様がどのような暮らしを好まれているかを職員間で話し合い希望に沿った支援に努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれはご本人と相談し、衣服の選別や希望があればマニキュアの施行等も行っている。月に一度の訪問理美容を利用している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けはご入居者と一緒に行っている。季節の果物を使った手作りケーキの工夫をしている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を行い体重の増減の観察、食事量や水分量の観察も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行い介助が必要な方へは口腔ケアにて清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表を基に様子をみて声かけを行いトイレ誘導を行っている。羞恥心やプライバシーにも配慮している。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便に繋がるように水分補給や適度な運動、腹部マッサージの促しを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回の入浴を行っている。入浴拒否がある場合は入浴剤を使ったり、声かけを工夫している。無理強いはせず心地よく入浴していただけるように支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長時間の座位が続かないように日中の活動量を増やしてメリハリのある過ごし方ができ、夜間の良眠にも繋がる活動を提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様の状態や経過等を記録し、状態変化等があった場合は速やかに医療関係者に情報提供して服薬の見直し等に活かせるようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりに合った役割や好まれる事が提供できるように周囲のご入居者様に配慮しながら支援している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響により外へ出かける頻度が少なくなったが、状況を見ながら近隣の散歩等を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の契約を行っているご入居者については必要に応じて使えるように支援している。ご家族へ毎月収支表を郵送し確認を行っている。その他の方はご家族へ連絡して必要な時に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リモートによる面会ができるようになり遠方のご家族との交流もできるようになった。引続き電話やお手紙のお手伝いもしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けを行い心地よい環境づくりを行っている。ご入居者と手作りのお菓子や作品づくりを行い生活感や季節感を取り入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方が近くにの席に座って話をしたり歌ったり楽しく時間を過ごされている。お独りの場合は様子を見て声かけをして居室で過ごしていただくこともある。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの小物やタンスを設置して少しでも落ち着いて心地よく過ごしていただける工夫をしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心安全に過ごしていただけるよう一人おひとりの身体機能の状態に配慮しながら家具、設備の工夫をしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		